海洋観測ブイによる水温・クロロフィルａ・流向・流速の定点観測

資料名	知床半島沿岸域における海洋観測ブイを用いた海洋観測等に係る業務報告書
調査主体	環境省
評価項目	１．特異な生態系の生産性が維持されていること ４．遺産地域内海域における海洋生態系の保全と持続的な水産資源利用による安定的な漁業が両立されていること
管理目標	知床半島周辺海域の温暖化等を含む海洋環境の変化とその特徴をより詳細に把握
モニタリング項目	海洋環境の変動把握
評価指標	水温、塩分、クロロフィルａ
評価基準	長期的に見たときの変動幅を逸脱しているかどうか （基礎データとして他のモニタリング結果の評価にも活用）

＜平成２０年度までの具体的調査手法＞

海洋観測ブイを斜里町ウトロ沖に１基、羅臼町昆布浜沖に１基設置し、水温、流向・流速・塩分・クロロフィルａの観測を実施

観測項目と観測層

調査年度	設置箇所	水温	流向・流速	塩分	クロロフィル
19 年度	ウトロ側	5、10、15、20、25、30、35m	5、20m	5m	5m
	羅臼側	5、10、15、20、25、30、35m	なし	5、35m	5、35m
20 年度	ウトロ側	1、5、10、15、20、25、30、35m	5、20m	5m	5m
	羅臼側	1、5、10、15、20、25、30、35m	なし	5、25m	5、25m

＜平成２０年度までの具体的調査データ例＞

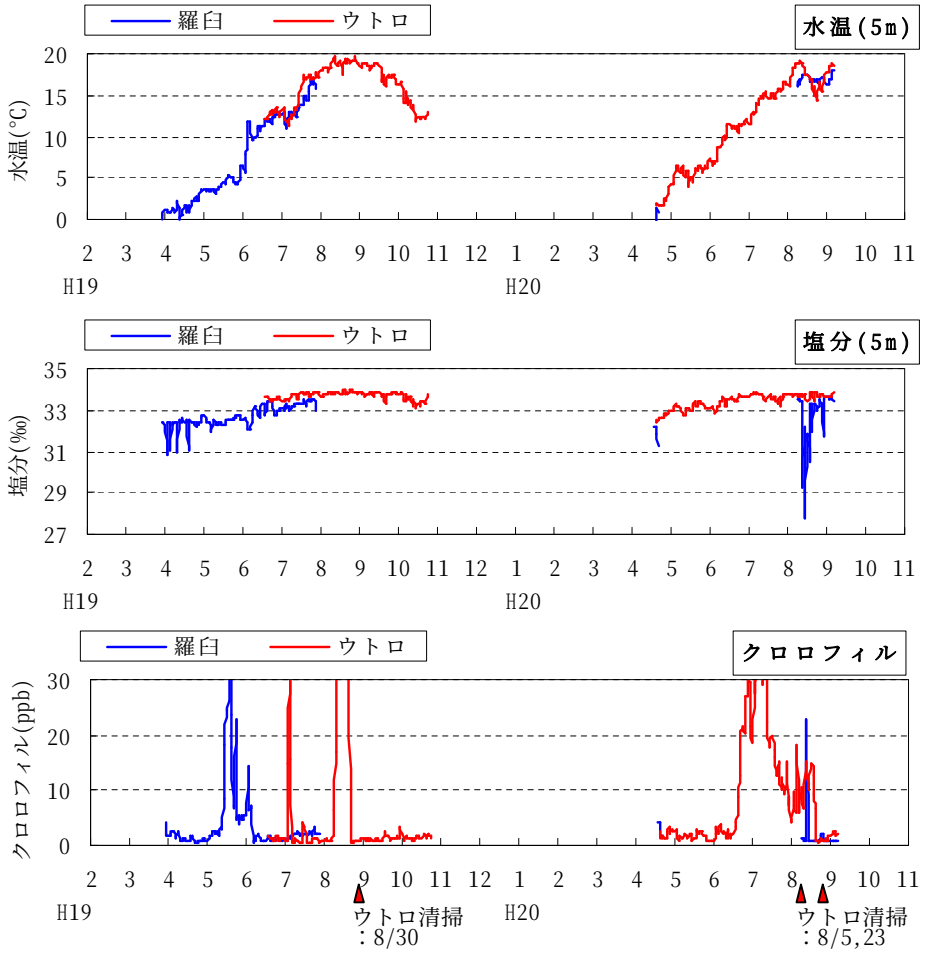

図　平成 19 年度及び平成 20 年度における水温、塩分、クロロフィルデータおよび観測項目と観測層
（平成 20 年度　知床半島沿岸域における海洋観測ブイを用いた海洋観測等に係る業務報告書より抜粋）

＜コメント＞

水温：ウトロ側・羅臼側ともに水温が顕著に増加している傾向はみられない。

塩分：ウトロ側・羅臼側ともに塩分が顕著に変動している傾向はみられない。

クロロフィル a：ウトロ側・羅臼側ともに基礎生産力が顕著に減少している傾向はみられない。

（今後の課題）

・クロロフィルデータの精度の向上

・冬季期間を含め、できるだけ長期間の観測の実施

・衛星リモートセンシングを活用したモニタリングデータとの相互活用の検討

＜評価＞

　データが２年分しか蓄積されておらず、また欠損もあることから現時点での評価は難しい。